【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成23年1月20日(2011.1.20)

【公開番号】特開2009-125244(P2009-125244A)
【公開日】平成21年6月11日(2009.6.11)
【年通号数】公開・登録公報2009-023
【出願番号】特願2007-302338(P2007-302338)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｈ　1/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｈ　1/02　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成22年11月22日(2010.11.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
また、特許文献２には、口腔内の上顎歯牙に係合する上顎係合部と、前記上顎係合部から離れた位置に設けられた把持部と、前記上顎係合部と前記把持部との間に突起部を設けることで前記把持部方向へ傾斜して形成された部材誘導面とを有する第一開閉部材と、口腔内の下顎歯牙に係合する下顎係合部を有し前記第一開閉部材と摺接可能に軸支され前記部材誘導面に摺接する摺動部を有する把持部材とで形成された第二開閉部材とを、前記上顎係合部及び前記下顎係合部をそれぞれ外側に向けて対向配置し、前記部材誘導面と前記摺動部とを摺動可能且つ前記摺動部を支点にして前記把持部材が可動可能な状態に連結して形成した開口訓練器であって、患者自身による前方向運動訓練及び開閉運動訓練を容易に行うことのできる開口訓練器が開示されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
本発明の開口訓練器Ａは、前記貝殻形状部材１とマウスピース部２とをねじ等の固定具１３で固着したものと、同様に貝殻形状部材２とマウスピース部４とを固定具１４で固着したものとを、貝殻形状部材１及び２の凸面を外接させるとともに、マウスピース部３及び４の貝殻形状部材係合部上においてゴムバンド１２により締着して構成される。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
尚、マウスピース部がマウスピース係合部において回転軸を介して揺動可能に接続された構成とした場合、各マウスピース部が貝殻形状部材に対して揺動自在となり、歯牙係合部が常に歯牙に接しながら開口訓練を行うことが可能となる。